

徳山試験地

2012

京都大学

フィールド科学教育研究センター

沿革

1931年に徳山町遠石の町有保安林36.2haを徳山町より寄付を受け、農学部砂防演習地として設置された。徳山海軍要港部からの要請により、1942年に徳山市笹葉ヶ丘に換地移転(20.0ha)して農学部附属演習林の試験地となった。1966年に徳山市の都市計画に伴い、現在地に再度移転した。国道用地への所管換があり面積は41.9haである。2003年に演習林、亜熱帯植物実験所、水産実験所(農学研究科)ならびに瀬戸臨海実験所(理学研究科)が再編され、フィールド科学教育研究センターが発足し、現在に至っている。旧試験地は周南緑地公園(西緑地)の「万葉の森」として市民の憩いの場となっている。

環境

徳山市街地の北側に連なる丘陵地にあり、地形は東西二つの尾根の間に南北方向の比較的緩い谷部があり、この凹地部分を除いて、全般的にかなり急傾斜地が多い。土壌は比較的深く、やや乾燥している。瀬戸内海式気候に属し、温暖であるが、降水量は比較的多い。冬の積雪は殆どないが、湿性の雪が降ることがある。早春と夏季は乾燥が著しい。

位 置	34° 04' N 131° 50' E
標 高	102~351 m
地 質	中生代三畳紀(周防変成岩) 母材:塩基性(緑色)片岩
土 壌 型	BB~BD
年平均気温	14.9 °C
年 降 水 量	1,895.4 mm
最 高 気 温	38.0 °C (1983年8月)
最 低 気 温	-10.0 °C (1999年2月)

※気象データは1981~2010年までの30年間

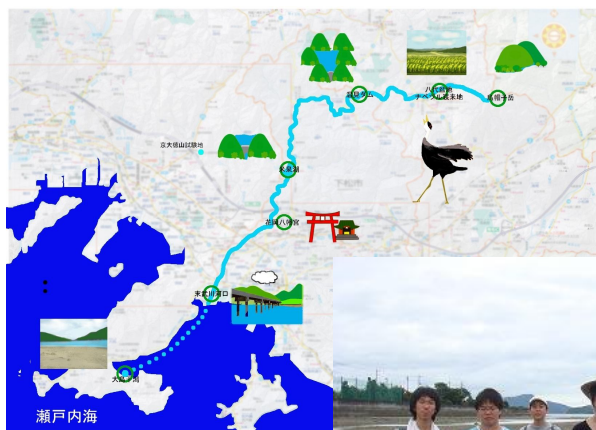
森 林

本試験地面積の18.55haは天然生林であるが、都市近郊に位置しているため薪炭林として頻繁に人為的な攪乱を受けたことや、松食い虫の被害により天然生アカマツの大半が枯死した結果、照葉樹林へと遷移している。潜在植生は、タブノキ・シイ・カシ類・クロキなどの暖温帯常緑広葉樹林である。

一方、20.55haは人工林で、所管換え以前からのスギ・ヒノキ造林地が11.82haあり、このうち60~85年生のヒノキ林が2007年度に文化庁より「ふるさと文化財の森(檜皮)」(文化財のための備林)に指定された。その他には1970年代前半に造成したマツの生育試験林は松食い虫や台風により枯損し、消滅したため、広葉樹(ケヤキ・クヌギ・ウバメガシ等)を植栽している。事務所入り口から苗畑にかけての道路沿いには、見本園(林)として国内外の緑化樹種を植栽展示している。

教 育

設定当初の演習地では砂防植栽実習の記録がある。本学から遠く実習施設も不十分なために教育利用は少なかったが、フィールド研に改組された2003年から、少人数セミナー(ポケゼミ:全学共通教育科目(1回生))が実施されている。現在は「瀬戸内に見る森里海連環」をテーマにしたフィールド実習(合宿形式)の集中講義が毎年8月上旬に、試験地周辺と末武川の源流から海までをフィールドに実施されている。



末武川実習マップ

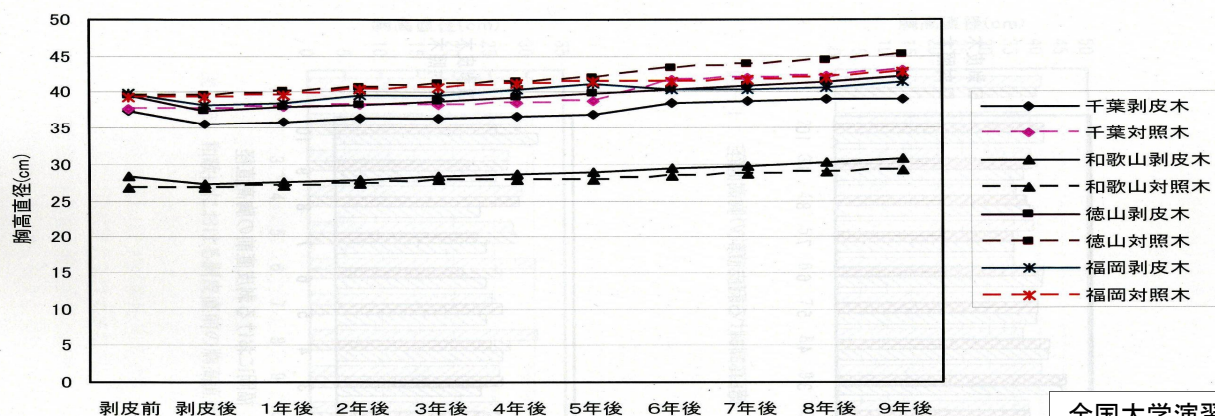
末武川河口にて



研究

所管換え以前に植栽された高齢ヒノキ林に「檜皮実験林」を設置し、1998年から檜皮の採取が生立木の成長や材質に及ぼす影響を継続調査している。これは、檜皮などの文化財修復用資材や技術者が不足するという近年の社会的背景によって、文化庁による資材確保のための調査・研究に協力して、全国大学演習林協議会が取り組む基礎的研究の一翼を担っている。今まで剥皮によって成長量に顕著な変化が見られるようなデータは得られていない。

この他、1972年に長期モニタリングサイトとして調査区が設定された、天然生二次林の遷移を調べるための調査などが続けられている。



剥皮前 剥皮後 1年後 2年後 3年後 4年後 5年後 6年後 7年後 8年後 9年後

各試験地の剥皮木・対照木別平均直径の推移
剥皮木と対照木は4年後に1対、5年後に3対を伐採

全国大学演習林協議会の
調査結果(科研報告書より)

社会連携



周南市連携講座・連携公開講座

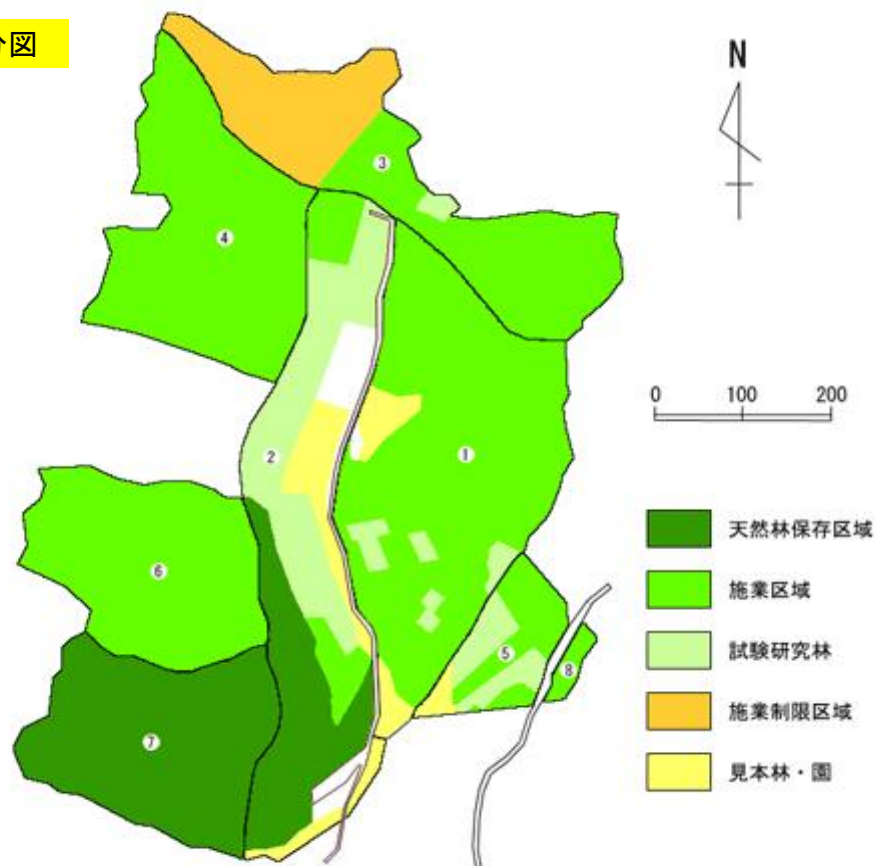
初代試験地が旧徳山町から土地の寄贈を受けて始まったことや2代目試験地が周南西緑地にあり、京大演習林が植えた樹木が今も立派に生育して、市民の憩いの場となっていることなどから、2010年に周南市との連携事業を開始した。年3回の講義とフィールド見学を現試験地で行うことになった。ふれ込みは「京大の全学共通科目である森里海連環学や森林学の講義を1コマ(90分)無料で聴講できる。」狭い講義室は熱心な参加者でいっぱいになる。

環境学習教室

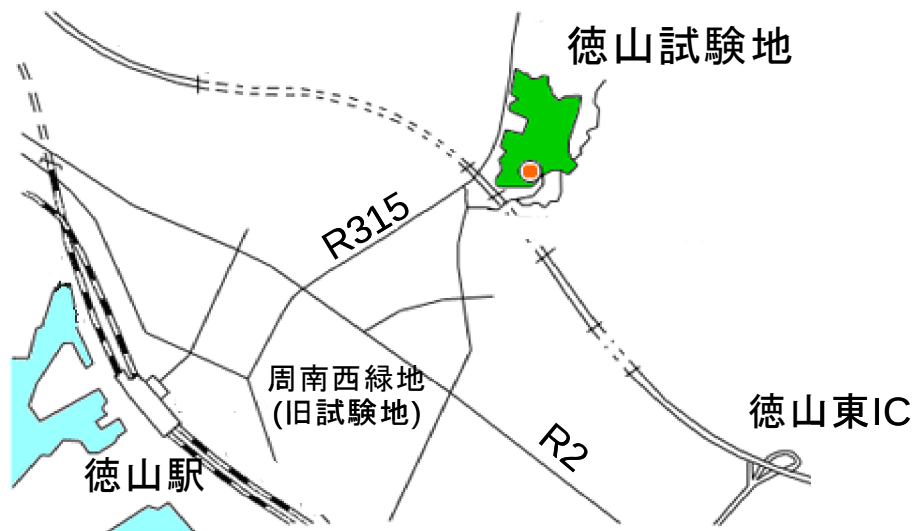
未来を担う子供達の声が試験地に響くことにも力を入れている。地域の公民館が企画した事業に秋の一日協力した。参加者は、午前中に試験地の見学と途中で採取してきた植物を使って、それぞれにオリジナルの図鑑を作った。午後からはボランティアの講師による指導で、ネイチャーゲームなどを楽しみながら環境について学んだ。これらは実物を見て、本物に触れ、自分自身で確かめるという大切な体験になる。



土地利用区分図



アクセス



徳山駅から、防長バス・高尾団地行き乗車(20分)。高尾団地下車のちに徒歩10分。
 徳山駅からタクシーで20分。

京都大学フィールド科学教育研究センター
 里域ステーション 徳山試験地
 〒745-0851 山口県周南市徳山鉢窪769
 TEL: 0834-21-7120 FAX: 0834-21-7121
<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/toku>